

環境世紀に向けた建築士としての取り組み

神奈川県 小野 綾子



こんにちは。建築環境部会と申します。私達は(社)神奈川県建築士会・技術支援委員会の中にある部会の一つで、主に、建築における環境問題を取り上げ研究し、講習会などを通し会員の研鑽と啓蒙を行なう目的で活動を続けています。

最近、新聞・メディア等で地球温暖化問題が多く取り上げられるようになりました。世界中の山岳氷河、北極・南極の氷は急激に融けだし、それが人類にとって差し迫った大問題だと、誰もが身近に感じずには居られないほどの異常気象が起っています。

建築行為による自然破壊、再建築による廃棄物の問題、また建築物を造るにあたってのCO2の排出は地球温暖化の問題に深く関わっています。室内環境に目を向ければ、健康・安全の観点から有害物質等の問題が挙げられます。エコロジー意識は大きく動き始め、環境破壊問題や健康問題に対しての世の関心は、非常に高まっています。

地球温暖化を防止するため、政府や各種団体では様々な研究が行われ、建築分野においては、近年立て続けに自立循環型住宅のガイドライン及びCASBEEが出ました。ツールが整い始め、環境世紀の始まりを実感しています。

地球温暖化問題等を身近に感じながら、現場で活躍する私達建築士に出来ることは何でしょうか。決定的な解答は単純には出ません。しかし、何か小さなことでも出来ることはあるはずと、私達の活動はそのような“地道な一歩”から始めました。

1. 国産材について考える

木材は鉄や、アルミニウムに比べて製造や加工および輸送に必要なエネルギーがとても少なくてすむと云う観点から、国産材活用を推奨して参りました。特に地元の木材活用については、環境負荷の有利性から、建築士ならば誰もが一度は思い描く対象だと思えます。

しかし、現実実践出来ているかと問われれば、もし実践していなければ、それは何故でしょうか？個人のモラルの問題だけでしょうか。県産材を取り巻く現状はどうなっているのか、最初に学び始めました。



神奈川の森林見学



県産材を使用した建築現場の見学会



県産材木店を訪ねて

外部木材関連団体の協力のもと、地元県産材活用について勉強会を行い、大きな反響がありました。

私達の意識の中に、国産材と云えば有名産地の材木と云うような錯覚があったかも知れません。そのため、改めて地元県産材を考えることが有ったか、無かったか。また、地元の山の情報についてあまりに少ないと云う現状、さらには供給量の絶対量の不足など。こういった問題が講習会で明らかになり、改めて自覚することが出来ました。それは、地元県産材活性化に関わる団体の方々にも良い情報となり、県産材活用問題に関して、今後は共通意識を持ちながら活動出来る可能性が生まれました。

現在は、森林循環フェアや木材活用工場の見学会などの共同活動も行っています。限りある資源を無駄にせず活用するにはどうしたら良いか、建築士としての探求は並行して続いています。



新月伐採の見学



神奈川の森林

2. 自然素材について学ぶ

自然素材は生産エネルギーも低く、土に還る低負荷な材料であり、室内空気環境による健康問題からも、様々な活用が考えられます。始めに自然素材を原料とする塗料の建材の勉強会を行い、その後、本置や建具の職人さんに直接お話を伺って日頃の疑問点等を聞ける勉強会も始めました。その他にもシックハウス及び電磁波過敏症対策の建物などを見学し、実際過敏症で悩んでいる方のお話を聞く勉強会や意見交換会にも活動範囲が広がって行きました。

これらの活動から、建築士として自然素材を提案することの意味や、その特性を理解し伝えるコミュニケーション力など、実践している方から貴重な情報も得られ、各自、実務に活かすことが出来たと思います。

今年は洞爺湖サミットもあり、益々国内のエコロジー意識が高まることと想像出来ます。建築活動は反エコロジー的に見られがちですし、その要素も多いです。このような中、私達建築士の姿勢が問われる時代となっています。今後も環境問題を念頭に、活動を続けて参りたいと思います。



森林循環フェア



「自然塗料とは？」講習会



「ドイツ・オーストリア・スイスでの環境配慮型住まい」講習会